

県外派遣報告書

審判員名	九里亜紀	所属	中体連	
大会名	平成25年度関東高等学校女子バスケットボール大会			
期間	平成25年6月7日(金)～6月9日(日)			
会場	東京体育館			
スケジュール				
期日	内容	場所		
6月7日(金)	審判会議	新宿ニューシティホテル		
6月8日(土)	1, 2回戦	東京体育館		
6月9日(日)	準決勝、決勝	東京体育館		
会議 講義 内容				
<p>審判会議では指名の茂泉圭治氏よりレクチャーが行われた。テーマは『試合で、いつも注意していること・心がけていること』審判の役割とはゲームを管理しスムーズに運営すること。ゲームを始めて、進めて、終わらせる。その中に公平性を伴う一貫した判定と規則・マニュアルの正しい理解と適応が求められる。そのようなレフリーをしていくために私たち審判員はそれぞれ大きな理想像や目標を持ち、それに向けた課題(スモールステップ)に日々取り組むことが大切である。達成までの道のりは人それぞれだが私たちの進むべきベクトルは一緒であるという話をいただいた。</p> <p>大会2日目は、指名の山田 巧氏よりレクチャーが行われた。①メンタルについて。厳しいゲームを吹くことで成長できる。ベンチから言われることも自分を成長させてくれる。“自分”を持つこと、謙虚さを持つことが大切。②レフリー技術について。いくつかのシチュエーションを挙げ説明。プレーの技術の見極めが大切。プレーがどこから始まり、どこで終わるのかを考え、捉え判定する。ショット・リバウンドの判定はトレイルの仕事である。③良かったと思えることについて。レフリーを通じて学んだことは仕事にも活きる。逃げない、責任を持つ、自分の意見を言える、自分を表現することが審判を通して身についた。以上、3つのテーマで話をいただいた。</p>				
実技				
担当試合	期日	7月8日(土)	男子 女子	女子
	対戦カード	国本女子(東京)	VS 県立藤沢西(神奈川)	主審 副審
	相手審判	佐藤 弘之氏(群馬)		
ミーティング内容		主任 野口 浩正氏 (東京)		
<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの入り、ゴール付近で大きく弾んだボールをリードにいるのに見上げてしまった。実際には下で選手が不当な手を使っていた。視野の分担・責任を優先する。 ・トレイルの位置が高いとダブルホイッスルとして鳴らせない。途中、修正しペネトレイトしていたときは判定できている。良い動きを取り入れ続けること。トレイルの位置取りの工夫。 ・リードで右に行くことは良いが、トレイルレフリーが見ているなら任せる。自分のエリアで起きそうなことに目を当てておく。 ・自分にドライブが向かってくるとき、何をしたらファウルとして取り上げるか準備して判定できるようにする。 				
全体の感想				
<p>私が今、大切に、取り組んでいることは「現場にいて判定すること」です。しかし、位置取りの工夫が足りないことや、プレーの理解が乏しいことで間違った判定につながっているのが現状です。1つ1つのプレーを正しく判定するための位置取りやバスケットボールへの理解を今以上に深めていくことを積極的に頑張っていきたいと思いました。また、たくさんの女性レフリーの方々から学び、刺激を受けました。今回の経験を生かし、良いものは自分に取り入れ、ステップアップできるよう引き続き努力していきます。最後になりましたが、3日間お世話になりました東京都審判委員会の皆様にご場をお借りして感謝申し上げます。また、ご指導いただいています多くの方々へ感謝申し上げます。ありがとうございました。</p>				